

# 提言

雲南市の「教育の魅力化」を目指して  
～地域・学校・家庭の  
よりよいつながり方について～

雲南市社会教育委員

はじめに

雲南市社会教育委員会では平成28年度に「雲南市の『教育魅力化』を目指して」と題して提言を作成し、教育委員会へ提出しました。

あれから5年が経過し、社会は劇的に変化をしました。

まず世界全体の状況としては、やはり新型コロナウイルス感染症の拡大が挙げられます。未知の病に社会生活や教育活動をはじめとした様々な活動が影響を受け、厳しい制約のなかで生活することを余儀なくされる事態になりました。そんな未曾有の事態を乗り越える過程で現在では「with コロナ」の働き方や生活様式が広く浸透しています。

学校現場では児童生徒に1人1台のタブレット端末が配布され、ICT教育の普及が急速に広まりました。

雲南市の教育に着目すると、前回の提言では導入前であったコミュニティ・スクールが、現在全ての中学校区に於いて学校運営協議会が設置され、校区の特性に対応しながら活動しています。

雲南市社会教育委員は、地域自主組織に関わっている委員や青少年の育成に関わっている委員、子どもたちの体験活動、家庭教育の支援をしている委員など様々な立場にいる委員が集まっています。そのため、本市において取り組むべき方向性について様々な視点をもって、活発な意見交換を行ってきました。

今回、私たち社会教育委員会では前回の提言「雲南市の『教育の魅力化』を目指して」を大切にしながら、改めて地域・学校・家庭が連携・協働する雲南市ならではの魅力ある教育について検討し、議論を重ねてきました。そして、ここに新たな提言としてまとめました。

本提言によって今後の雲南市の社会教育行政と各地域の取り組みがますます発展するための一助となることを期待します。

令和5年3月22日

雲南市社会教育委員

## 目次

### 第1章 なぜ今、学校と地域の協働が必要なのか

- (1) 国・県の施策
- (2) 雲南市の現状
- (3) これからの社会教育の方向性

### 第2章 よりよいつながりづくりに向けた具体的な方策への提言

- (1) コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の充実
  - ア) 各中学校区の学校運営協議会がつながり合える場を作る
  - イ) 学校運営協議会と地域学校協働活動の目的を改めて考えていく
  
- (2) 情報共有の場の設定
  - ア) 学校と地域自主組織とのつながりづくり
  - イ) さまざまな立場の人たちとのつながりづくり（放課後児童クラブ、放課後子ども教室など）
  - ウ) 保護者・地域とのつながりづくり
  
- (3) コーディネーター（CN）機能の強化
  - ア) CN 制度があることによって地域・子どもたちにどんな変化があったかを検証していく
  - イ) より顔の見える地域 CN の活動を目指して

## まとめ

社会教育委員として提言をもとにどう関わっていくか。

## 第1章

### なぜ今、学校と地域の協働が必要なのか

#### (1) 国・県の施策

##### 【 国の施策 】

昨今、少子高齢化や地域のつながりの減少による地域の教育力の低下や、発達障がいや貧困といった福祉的な課題の増加などを背景に、学校が抱える課題が複雑化・多様化する中、学校だけではなく、社会全体で子どもの育ちを支えていくことが求められています。

一方で、グローバル化、人工知能の進化などにより、変化が激しく予測困難な未来が来ることが予想されています。現在ある仕事の多くが10年後、20年後には消滅し、子どもたちの半数近くが現在存在していない職業に就く可能性もあり、学校で教えていることが将来の社会で通用しないのではないかと指摘がされています。

2020年からの新学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有し社会と連携・協働しながら未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を重視し、その理念を前文に明示しています。

この理念の実現に向けては、組織的・継続的に地域と学校が連携・協働していくことが大変重要といえます。

##### 【 県の施策 】

島根県教育委員会は令和2年度から5年間の島根県の教育の理念や施策の方向性を示す「しまね教育魅力化ビジョン」を策定しました。

「しまね教育魅力化ビジョン」では、島根県の教育が目指すべき姿として基本理念をもとに「育成したい人間像」、「育成したい力」を示しています。

また学習指導要領（平成29年度告示）で示された、「育成すべき資質・能力の3つの柱」や、「社会に開かれた教育課程」の実現は、島根県がこれまで学校・家庭・地域と連携・協働しながら取り組んできた「教育の魅力化」などの施策と方向を同じくするものであります。そして、学校・地域・家庭が、基本理念や「育成したい人間像」、「育成したい力」を共有し、連携・協働を図りながら島根の教育をよりよいものに高めていくことが「教育の魅力化」であることを示しています。

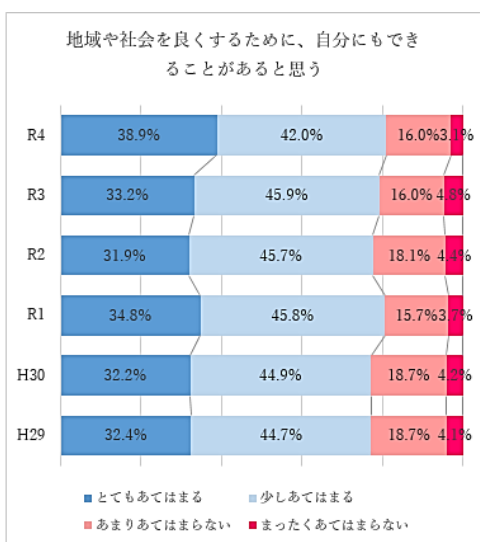
教育の魅力化を推進することは、魅力ある地域社会を作ることにつながり、魅力ある地域社会の活力は、教育の魅力化を推進することにつながる、としています。

## (2) 雲南市の現状

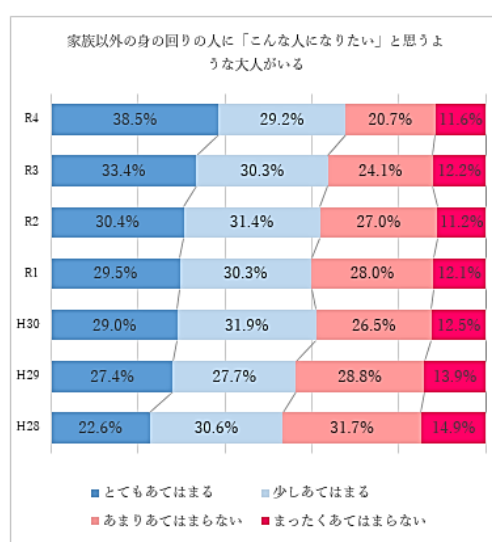
市内児童・生徒及び市民へのアンケートの結果から、雲南市の教育の現状を考察します。

雲南市内の小学4年生から中学3年生を対象に行っている『雲南市児童・生徒実態調査』によると、「地域や社会を良くするために、自分にもできることがある」と考える児童・生徒は年々上昇傾向にあることが分かります（グラフ①）。社会教育の分野において、小学校世代では、自然体験活動や放課後子ども教室等を通して、地域のひと・もの・ことに触れることで、地域や社会に貢献したいと思う気持ちにつながるのでは、と考えます。また、中学校世代では地域ボランティア活動などを通して、地域の人と関わり合いながら、主体的に学ぶ人材の育成が行われています。そして、義務教育を修了後も高校世代には課題解決型学習プログラムがあります。このことが、地域への愛着形成に繋がっていると考えられます。

さらに、「家族以外の身の回りの人に『こんな人になりたい』と思うような大人がいる」という項目について、児童・生徒の肯定的な答えが上昇していることが分かります（グラフ②）。このことについては、子どもたちが様々な場面で地域の大人や上の年代と関わり、共に活動することで高まっていると考えられます。共に活動することを通して、将来の自分の姿について「こうありたい」というイメージをもつことに繋がるのではないのでしょうか。



(グラフ①)

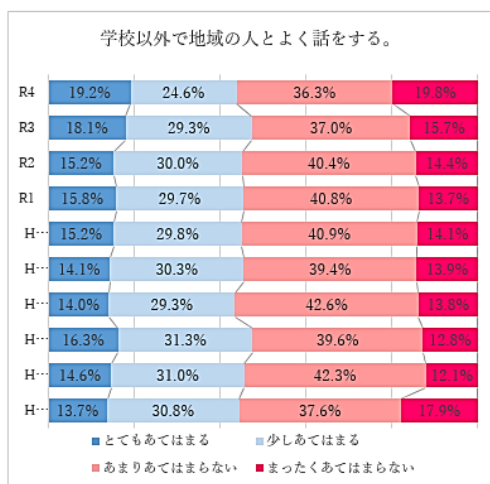


(グラフ②)

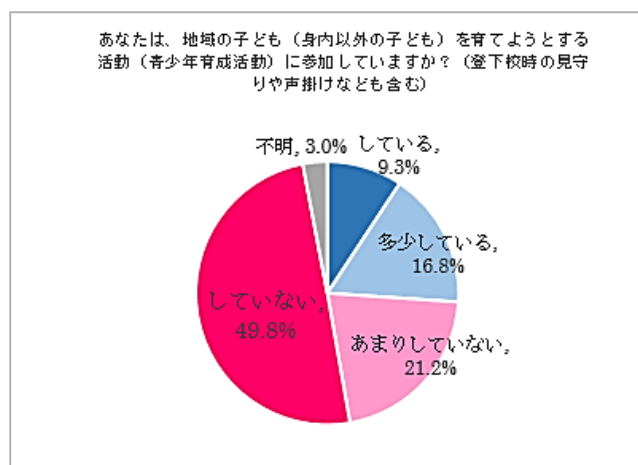
一方で、学校外での大人との関わりについて、「学校以外で地域の人とよく話をする」という項目に対して肯定的に答えた児童・生徒は半分以下にとどまっており、特に令和4年度は「まったくあてはまらない」と答えた児童・生徒の割合は約20%にまでなりました（グラフ③）。

また、令和4年3月～4月に20歳以上90歳未満の男女を対象に実施した『市民生活の現状に関するアンケート調査』によると、「地域の子ども（身内以外の子ども）を育てようという活動（青少年育成活動）に参加している」と答えた市民は26.1%でした（グラフ④）。

コロナ禍の影響もあるかもしれませんが、子どもを核とした地域学校協働活動での連携・協働のあり方は今後も検討していくことが必要であると考えます。



(グラフ③)



(グラフ④)

### (3) これからの社会教育の方向性

学習指導要領（平成29年度告示）には、子どもたちに求められる資質・能力を社会と共有し連携する「社会に開かれた教育課程」を重視することが示されました。

また、地域は、子どもたちに「学んだことを人生や社会に生かそうとする」「実際の社会や生活で生きて働く」「未知の状況にも対応できる」力を与えてくれるとても良い教育の場であるとも示しています。

これまでも連携の重要性が言われてきましたが、今回の改訂により、子どもたちが学校の教育課程の中で地域課題を探究的に学べるようにすることや地域の中で学校の学びを生かし、自分の考えや力を発揮して活躍できる場を創り出すことなどの重要性が高まりました。

子どもや若者が「地域課題解決学習」を通じて地域の課題やその解決方法を他の住民とともに実践的に学ぶとともに、高齢者を含む住民との多世代交流を通じて、地域の歴史や文化、産業などについて理解を深め、地域への愛着や誇りが育まれるなど子どもや若者の成長につながることを期待されます。

こうした学校教育の変化を地域にも理解してもらい、その地域に合った新しい連携の在り方を学校・地域が模索していかなければなりません。

## 第2章

### よりよいつながりづくりに向けた具体的な方策への提言

雲南市において、教育の魅力化を進めていくことは、何も新しいことを始めるのではありません。今まで教育行政の中で行ってきたことを改めて見つめ直し、充実させていくことが教育の魅力化につながります。

今、雲南市は「学校を核とした地域づくり」が進んでいます。子どもたちのために模索した活動によって、地域での新たなつながりが生まれ、広がっていきます。

ここでは、雲南市の教育で大切にされている中から、よりよいつながりづくりに向けて、具体的な方策を述べていきたいと思います。

#### (1) コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の充実

雲南市では中学校区ごとに1つのコミュニティ・スクールを設置しました。中学校区でのコミュニティ・スクールの導入は

- ①平成20年度よりスタートした『夢』発見プログラムを核とした、保幼小中高での一貫したキャリア教育の推進
  - ②地域・学校・家庭が中学校卒業時の生徒像を共有し、そこに向かい対話を進めることにより地域総がかりで地域の子どもの育てていこうとする意識の醸成と取り組みの充実化
- を目指して行っています。

平成29年度には海潮中学校区と三刀屋中学校区に、平成30年度には加茂中学校区と吉田中学校区と掛合中学校区に、そして令和元年度には大東中学校区と木次中学校区に学校運営協議会が設置され、すべての中学校区にコミュニティ・スクールが導入されました。各校別ではなく、中学校区での設置には次のような効果が期待できます。

- ①地域ぐるみで中学校まで一貫性のある取り組みができる。
- ②地域内の多くの園・学校で幅広い取り組みができる。
- ③子どもを取り巻く多くの人とのつながりができる。

しかし、雲南市が進めている中学校区でのコミュニティ・スクールの設置には課題も多く存在しています。現在のコミュニティ・スクールの課題としては

- ①既存の会議体との関連性の整理、一本化
- ②誰が中心となって進めていき、何を議論するのか
- ③協議会のあり方、メンバーシップと役割
- ④コミュニティ・スクールに対する地域・学校・家庭それぞれにおける目的意識の共有不足等があります。

これからさらに雲南市のコミュニティ・スクールを進めながらこれらの課題

を解決し、雲南市のコミュニティ・スクールの取り組みの内容を高めていくこと  
になります。

### 具体提案

- ア) 各中学校区の学校運営協議会がつながり合える場を作る
- イ) 学校運営協議会と地域学校協働活動の目的を改めて考えていく

#### ア) 各中学校区の学校運営協議会がつながり合える場を作る

雲南市のコミュニティ・スクールが、中学校区をもとに設置されていることから、広がりのあるつながりが期待できます。地域の小・中学校だけでなく幼稚園・こども園も巻き込んだ環境の中で、子どもを核とした幅広い活動が展開できることは、本来の学校運営協議会の目的を超えた効果が期待できます。

また、それぞれのコミュニティ・スクールは、地域の実態を考慮し、工夫された組織づくりや活動計画を立てる中で、学校・地域・家庭のつながりを深めるため、それぞれの役割を果たすために活動することができます。「協議会」という単に会議だけで終わることの無いようにしていくことが大切です。

市内の7つのコミュニティ・スクールが、地域の特性を生かしながら活動を進める中で、相互に関わり合える関係を構築するためには「雲南市学校運営協議会連絡会」（仮称）の設置の検討をすすめていくことが必要であります。この会がコミュニティ・スクールの資質を高めることになるのではないのでしょうか。

協議会に参加している社会教育委員、また、それぞれの持ち場で活動している社会教育委員にとって、コミュニティ・スクールは地域と共に活動できる大切な場として位置付けていけます。

#### イ) 学校運営協議会と地域学校協働活動の目的を改めて考えていく

本来、学校運営協議会は、地域と共に学校をよくしていく、というように目的は学校に向いています。そして、雲南市は学校運営協議会と地域学校協働活動と両輪で動いていることで、地域にも目的が向いているはずですが、どちらか一方通行にならないようにすることが大切になります。

学校の問題（課題）を地域と連携・協働して解決に向かうように、地域の問題（課題）もまた学校と連携・協働して解決に向かえるはずですが。

子どものよりよい成長を共通の目的として、地域と学校がパートナーとして連携・協働することで、地域の将来を担う人材を育成するとともに、地域住民のつながりや地域への貢献意欲を深め、自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図り、地域の創生につなげていくことが大切です。まさに「学校を核とした地域づくり」の推進であり、例えば、学校の中で、ふるさと教育として、地域住民と



ともに郷土について学んだり、地域課題を解決したり、地域の中で、行事に参画してともに地域づくりに関わるといった活動が考えられます。

## (2) 情報共有の場の設定

「地域と学校の関わりがあると教育の質が上がる」－これは学校だけではできないことがある中、地域の力を借りることで子どもたちの教育がさらに充実することを意味しています。しかしながら、それぞれの立場の方々が一生懸命子どもたちと向き合っていく中、「このやり方であっているのか?」「学校の指導とそろえた方がいいのでは?」「学校の外の子どもたちの様子も知ってほしい」などの意見や疑問も生まれてきています。この改善策として、「情報共有の場の設定」が必要になってくると考えます。

### 具体提案

#### ア) 学校と地域自主組織とのつながりづくり

#### イ) さまざまな立場の人たちとのつながりづくり(放課後児童クラブ、放課後子ども教室など)

#### ウ) 保護者・地域とのつながりづくり

#### ア) 学校と地域自主組織とのつながりづくり

雲南市において「地域自主組織」は地域づくりの重要な組織であり、住民にとって信頼できる力強いものとなっています。

また、地域の小学生・中学生を、地域の宝として育て、そして将来に期待しながら様々な取り組みを行っています。一方、学校は、地域コーディネーターのサポートによる地域とのつながりを大切にした教育活動を展開しています。

しかし、雲南市以外から赴任している教職員が多くなっている中で、「地域自主組織とは何?」という見逃がせない教職員の状況もあります。校区内の地域自主組織の状況や活動を理解することは、地域をテーマとした教育活動を推進するのに不可欠なことだと思います。

ある校区では、5年前から、全ての地域自主組織が中学校の地域学習に参加し、子どもたちに「地域の課題」について考える場を持たせてもらっています。また、3年前、中学校の先生方に「雲南市の地域自主組織とは?」「この校区の地域自主組織は?」など説明する場を頂きました。これを機会に、教職員のみなさんが地域への新しい発見や理解が深まったと聞いています。生徒の地域学習を有効に進めることに結びついた一例です。

学校と地域が、相互理解を基本とするならば、教育委員会の役割でもありますが、この中学校での取り組みを全ての小・中学校において「教職員向けの『地域

自主組織学習』として取り入れていただきたいと思います。

### **イ) さまざまな立場の人たちとのつながりづくり（放課後児童クラブ、放課後子ども教室など）**

小学校就学児童に対し、放課後や長期休業中の適切な遊びおよび生活の場を提供し、健全な育成を図るための施設として放課後児童クラブ、放課後子ども教室などが学校の外、家庭ではない場所にあります。日々、それぞれの場所で子どもたちの見守りをしていただいています。さまざまな立場の人たちとのつながりがまだ足りません。よりよい子どもたちの見守りのため、以下の3点のつながりづくりの重要性を改めて考えました。

#### **①他の施設スタッフとのつながりづくり**

それぞれの施設ではスタッフ同士がミーティング等を行い、施設内での情報共有は行われています。しかし、他の施設で一体どんな取り組みが行われているのかは分からないのが現状です。そこで、「事業内容の向上のためのブロック会議（仮称）」の定期的な開催をすることにより、他の施設との情報共有ができます。各施設での困りごとや、またそれらをどうやって解決したのかなどを他の施設と共有することで、「何かあった時に」役立つこともあります。また「新たな気づき」を持ち帰ることで、今後のそれぞれの施設での取り組みのヒントとして活用できます。

#### **②運営機関同士や行政とのつながりづくり**

施設のスタッフ同士の連携の必要性は述べましたが、運営機関同士の連携も必要になります。運営機関は運営方針のこと、保護者との連絡などにも気を配る必要があります。それらの運営面での情報なども共有することで今後のよりよい運営につながります。

また、行政職員も交えた会議も定期的開催し、現場の要望に迅速に対応できる仕組みづくりも重要です。過去には、行政との会議の中で保護者とのメール配信システムの導入が迅速にできた例もあります。このように運営機関の意見、要望を行政職員の方に定期的に届けることで子どもたちの活動等がより円滑に進んでいきます。

#### **③学校とのつながりづくり**

これは「子どもたちの生活の連続性の保障をするため」に大切にしたいことです。子どもたちの様子や健康状態（ケガなど）を学校と積極的に共有することで学校の外での活動も安心して行えます。また、学校の行事の関係で平日が休みになったり、午後からは家に帰る必要がある時なども学校と情報共有しておく、関係機関と連携して子どもたちを見守ることができます。

さまざまな立場の人たちのつながりが強くなればなるほど、子どもたちを守る大人は安心して子どもたちに関わることができます。そして、各関係機関のつながりが強化されることは、子どもたちが学校や家の外で安心して過ごせることにもつながるのです。

## ウ) 保護者・地域とのつながりづくり

放課後児童クラブや放課後子ども教室（以下、「放課後の子どもの居場所」）が継続して運営していくためには、保護者を含め児童の健やかな成長に関わる大人たちが、立場を超えて放課後の児童対策に取り組むことが重要になってきます。

保護者とのつながりづくり、また地域とのつながりづくりのための方法として実際に取り組まれている事例を挙げながら提案します。

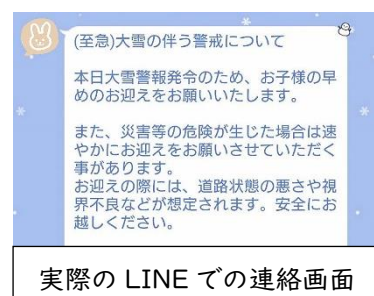
### ①保護者とのつながりづくり

保護者との連絡手段として LINE 登録を必須とし、活用して児童の様子をお伝えしている方法をとっているところがあります。LINE は事務局からのお知らせのみで保護者からの返信などはできないようになっていきます。連絡手段を統一することで一斉の連絡が容易になります。例えば、急な予定の変更などをスムーズに全体に共有できます。

また、イベントなどがあった時の子どもたちの様子を伝えるのに活用しています。子どもたちが家に帰った時に「こんなことをしたんだね」などと声を掛けてもらうことで、子どもたちは「自分のことを見てくれている」という安心感につながります。

「放課後の子どもの居場所」での子どもたちは学校とはまたちがった一場面を見せます。学校ではしっかりして見える子どもが、「放課後の子どもの居場所」では「甘え」が出てしまい、指示が守れないこともしばしばです。またその逆もあり、学校では叱られてばかりの子どもが「放課後の子どもの居場所」では自分以外の友達の面倒をみるなどの場面もみられます。どちらの姿も家庭では見られない姿なのかもしれません。「どちらが」本当の姿ではなく、「どちらも」本当の姿なのです。

家庭以外での子どもの様子を保護者に伝えることは、連続した子育ての一端を担うことにつながります。個人的なものは直接保護者に伝える方がよいと思いますので、日頃から保護者と気軽に話ができる雰囲気を作る必要があります。例えば、迎えの時には玄関前だけでなく、施設内まで入ってもらえるようにすることで、保護者との情報共有がスムーズにいきます。



## ②地域とのつながりづくり

地域と連携・協働して、地域における児童のさまざまな体験や学びの機会の充実を図ることは大切です。そのためにも多様な人材の参画を促進して、つながりあうことが重要になってきます。

地域と連携・協働して、地域における児童のさまざまな体験や学びの機会の充実を図ることは大切です。そのためにも多様な人材の参画を促進して、つながりあうことが重要になってきます。

ここでは、地域とのつながり方の事例を紹介します。

まず、市民活動団体が企画運営している活動に、「放課後の子どもの居場所」に来ている子ども達が参加しました。この活動を通して、地域の交流の輪が広がりました。

また、地域自主組織の情報を活用することもあります。地域の方や大学生ボランティアに「放課後子どもの居場所」の活動に参画してもらいました。

(この好事例の詳しい内容は、別添に載せています。ご覧ください。)

このように地域にはさまざまな「ひと・もの・こと」の資源があふれています。その資源の情報をしっかりとキャッチし、子どもたちにつなげることで、子どもたちの学びの幅が広がります。子どもたちにとっても学びが広がり、地域等にとっても自己有用感を感じる機会が持てることでまさに「Win-win」の関係が形成されています。

保護者とのつながり、地域とのつながりも子どもたちの成長には欠かせません。「地域の子どもは地域で見守り育てていく」ことがこれからの雲南市の子育てに必要なのではないのでしょうか。

### (3) コーディネーター (CN) 機能の強化

日々多忙な学校現場に一人でも多くの地域ボランティアが関わることで、教育活動が充実し、子どもたちの「生きる力」が育まれることは、学校・地域・家庭の共通の願いであります。文部科学省では、平成20年度から「学校支援地域本部事業」を全国的に展開しています。「学校・家庭・地域の連携」「生涯学習社会の実現」をめざすもので、地域住民がボランティア等で学校を支援することで、教員が子どもと向き合う時間を確保し、適切な指導・支援を行うことができるようにしています。

雲南市では、本事業を活用した子どもを育てるための学校支援体制の整備として、全小中学校に各種コーディネーターを配置してきました。これにより、学校と地域の連携を更に強化してきました。地域コーディネーター（以下、地域CN）は学校支援に関する学校や地域のニーズの把握、学校支援ボランティアの発掘・派遣調整、学校支援に関わる地域の「ひと・もの・こと」情報の収集など、

開かれた学校づくりのために取り組んでいます。令和3年度において、学校と地域を繋ぐ地域 CN の役割、業務内容が整理され、処遇や活動時間等の見直しを図り、新たな推進体制となった今、改めて地域 CN の機能について考えていく必要があります。

### 具体提案

**ア) CN 制度があることによって地域・子どもたちにどんな変化があったかを検証していく**

**イ) より顔の見える地域 CN の活動を目指して**

**ア) CN 制度があることによって地域・子どもたちにどんな変化があったかを検証していく**

社会教育委員の中には、地域 CN と関わりがある委員、また実際に地域 CN として活動している委員もいます。社会教育の視点からも、地域と学校との協働を目指す地域 CN はとても重要な関係です。

地域 CN は、学校の様子を地域に伝える活動を積極的に展開してきたことで、地域の方に、より学校を身近な場所として感じてもらうことができました。そのことから、地域ボランティアとして学校に関わる地域の方が増えてきました。また、学校の環境整備活動等にも積極的に参加する地域住民が増えてきました。児童生徒数が減少し、子どものいる世帯も減少している現状ですが、「地域の応援団」は確実に増えています。

地域 CN 制度が始まって15年余経過しましたが、その中で、地域と学校、地域の中で子どもたちの様子に変化があったことは明らかです。地域や子どもたちの変化を集約し、検証していくことで今後の地域 CN 制度のブラッシュアップにつながっていくと考えます。

**イ) より顔の見える地域 CN の活動を目指して**

地域 CN の活動を認めている方はたくさんいますが、その反面「地域 CN の活動がどこで何をされているか実態がわかりにくい」との声（または知らない方）があるのも現実です。学校と地域をつないでいる地域 CN の活動は大変重要であるのは間違いありません。ここでは「より顔の見える地域 CN の活動を目指して」として、3つの項目を挙げていきたいと思えます。

#### ①学校内における地域 CN の積極的な関わり

地域 CN が学校と地域の協働の役割を果たすには、各学校において地域 CN の活動への理解と協力体制の構築が重要となります。

「チーム学校」として、教職員とのより良い人間関係や信頼関係を構築すること

で、地域 CN の活動への理解が広がり、また地域 CN も見通しを持った活動を推進することができます。

そのためには、職員会議への参加や教職員との連絡調整の時間確保も必要となってきます。

## ②校区内の地域自主組織とのつながりづくり

地域 CN の活動が地域と直接つながるために、その窓口として地域自主組織と関わってみてはどうでしょうか。具体的には、地域自主組織のスタッフ会に参加していただくことです。この中で学校行事を知らせたり、逆に地域内の諸行事などを把握し、学校に伝えることで、学校と地域のかけ橋的役割を担えます。また学校が求めている地域資源と、地域の「ひと・もの・こと」の情報を共有することができます。

## ③地域 CN の活動を情報発信する

地域 CN の具体的な活動を学校内外へ紹介するのはどうでしょうか。実際に市内でも、中学校区で学期に1回「CN 通信」を発行している地域があります。CN 通信は全戸配布や学校のホームページに載せることで、まだ知られない地域の方にも地域と学校の間がよくなりますし、地域 CN の活動の PR にもなります。

地域 CN の活動は単なる事務的処理だけでなく、幅広い知識と情報網を持つことが大切です。そのためには、各種研修会へ参加し自ら研鑽を積むことも大切です。身近にいる地域 CN との情報交換も必要です。そして地域へ出向き地域住民とも信頼関係を築くことにより、地域 CN が情報の受信と発信基地になることも必要です。今回提案したことを活動のヒントとして「より顔の見える地域 CN の活動」としていただけたらと思います。

ここでは、地域 CN の活動について挙げましたが、地域 CN の活動を受け入れる側の姿勢も大切だと思います。地域が「地域 CN の活動」をどう受け入れるかによって、学校と地域の関係性も変わってくると思います。地域に出てつながろうとしている地域 CN を温かく受け入れる基盤が地域に存在することが大切です。また、地域 CN 制度が末永く続くには、地域 CN の要望を聞く場を積極的に取り入れることも大切にしたいことです。行政においては、よりよい関係性を築きながら、定期的なヒアリングを行うなど、これからも大切にしたいと思います。関係者の方々においては、任せきりではなく、いわば「チーム雲南」として取り組んでいけるといいと思います。

## まとめ

雲南市ならではの魅力ある教育のために、「地域・学校・家庭の連携・協働」はさらに強めていきたいことです。これからの「よりよいつながりづくり」に向けた取り組みについて整理し、それぞれの具体的な提案を述べてきました。

よりよいつながりは、雲南市の子どもたちを大切に、サポートできる地域社会へとつながっていきます。その効果は10年20年後の未来社会に生きる力として現れてきます。

人とともに生きることを学ぶためには、自分のことをよく知ると同時に他者のことも学ばなければなりません。学びは個人の成長だけでなく、集団として、また地域社会としても重要なことです。私たち社会教育委員としては、様々な立場を活かして情報を共有し、交換し自分達も学びながら活動することを継続していきたいと思います。今回、新たな提言を提出することで改めて提言に沿った内容で評価・検証していきたいと思います。

「今、自分ができることから、地道にやる」という基本姿勢を忘れずに、今後も研修や研究、議論を重ね、雲南市の子どもたちのために、そして「学校を核とした地域づくり」のために微力ながら努力・精進していきたいと思います。

### 令和3年度・4年度社会教育委員

会長	石飛 安弘	副会長	松島 俊枝
	井上 孝弘		小林 和彦
	芝 由紀子		須山 幹子
	谷戸 俊一		富山 邑子
	藤原 豊善		松本 弘和
	村上 明子		横山 武志

## <別添資料1>

### ウ) 保護者・地域とのつながりづくり

#### ②地域とのつながりづくり

地域とのつながり方は様々です。ここでは加茂地区の事例を紹介します。今後の「放課後の子どもの居場所」と地域とのつながりづくりのヒントになればと思います。

雲南市には、地域おせっかい会議という市民活動があり、そのメンバー（加茂郵便局、加茂子育て支援センター、加茂交流センター、Community Nurse Company 株式会社、会議に共感してくれている個人など）が企画運営している活動の一つとして「加茂中駅を飾ろう」というプロジェクトがあります。これは季節ごとに加茂中駅構内の飾りつけを行う活動で、2021年5月から「子どもの居場所」の子どもも参加して、地域との関わりを深めています。

事前準備では地域の方が飾り作りを教えにきてくれて、子ども達ともものづくりを通じた交流があり、最終的に駅に飾りつける目的のもと活動するのでやっていたことが形になり、子ども達も達成感を得る機会にもなっています。

季節ごとに何度も開催するため、地域の人と子ども達が自然と顔なじみになっていき、回を重ねるにつれて、子どもだけでなくその保護者とも交流の輪が広がっています。

また、地域自主組織職員の情報を活用することもあります。マジックを披露する場が欲しい地域の方をお呼びして子どもたちと楽しい時間を過ごしました。

長期休業中などは、大学生のボランティア活動ともマッチングして「宿題応援団」などに参画してもらっています。小学生にとっては大学生に宿題を教えてもらえることで学習意欲が向上しました。



「加茂中駅を飾ろう」プロジェクトの一場面



<別添資料2>

イ) より顔の見える地域 CN の活動を目指して

③地域 CN からの情報発信

吉田中学校区では、「コーディネーター通信」を学期に1度発行しています。内容は、各小中学校の地域 CN が関わった学校での学習、行事の参加を載せています。吉田町全戸配布をし、また各学校のホームページにも掲載していただいています。

発行所 雲南市吉田町内地域コーディネーター  
発行日 令和4年7月 R4年度 第1号 (1)

# コーディネーター通信

吉田町  
吉田小学校  
地域コーディネーター  
松島 俊枝

暑中お見舞い申し上げます  
今年はいまだに異常気象の中、梅雨の期間も最短で、連日曇さとの戦いですね☁️  
こまめに水分補給をしながら、みなさん元気でこの夏を乗り切りましょう...!!

4/11 今年はいよいよ4名の新入生を迎え、計24名の児童で元気に1学期をスタートしました!

5/19 標高663.4Mの板山に、今年も全校で登山をしました。もちろん、頂上では“とち～やまの～♪”と、大きな声で校歌を歌いました。

★ 6/10・17 前期地域クラブ活動

3年生以上の児童14名が、2回にわたり地域の皆さんを講師に迎えて、3グループに分かれて活動しました。

茶道  
グラウンドゴルフ  
フラワーアレンジメント

忘れていたこともていねいに教えてもらって、うまくたえられるようになりたい。

いいアドバイスが聞けたし、おかげでしようすにできたから、うれしかったです。

6年生になって初めてのクラブがとても楽しかったので、よかったです。

5/24 高学年: たたら学習

田井小学校と合同で、「小だたら探業」に向けて事前学習をしました。

7/11 中学年: ほたる学習

森山一二三さん宅のピオトープや駐在所裏の川を見学しました。

6/24 低学年: まち探検

2グループに別れて、歩いてまち探検をしました!

田部家・博物館など、見るところがいっぱい!

感謝!

環境整備ボランティア活動では、お忙しい中を校庭の草刈りなど行っていただきました。また、校舎内の生け花や、給食時のくずいれも折っていただいています。

あつかったけど、いろんなものがみれて、たのしかったよ

←整備された田部家の池